学校番号	301

令和８年度　理科

教科	理科	科目	(学)地学基礎 探究演習	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校　地学基礎」　（啓林館）　※２年次で使用していた教科書						
副教材等	改訂　大学入学共通テスト攻略問題集　ビーライン地学基礎（第一学習社） 第一学習社セミナー地学基礎 2025・地学基礎探究ノート（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

固体地球、地球と生命の進化、気象、天文分野と地学で扱うものは非常に範囲が広いです。また、数式はあまり多くは出てきませんが、それを理解するのに、物理・化学・生物の幅広い知識が必要になります。また、図やグラフ・表から情報を読み取ることも必要です。教科書・授業プリント・問題集を使って、知識・技能（データーの処理能力）・思考（データを解釈する能力）の力を高めましょう。

2　学習の到達目標

知識及び技能	…教科書等に示された知識をもとに実習課題のデータを理解し正しい結果に到達できるようにする。
思考力、判断力、表現力等	…様々な地学現象を知識・技能を用いて考察し、得た結論を自分の言葉で表現できるようにする。
学びに向かう力、人間性等	…単元ごとに設定する探究活動を様々な方法で調べてレポートにまとめるとともに他者へ説明できるようにする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	天文・気象を含む地学現象について、単元ごとに教科書に示されている知識が理解できている。また、教科書に示されているグラフや図及びデーターを正確に読み取ることができているか。	天文・気象を含む地学現象について、教科書に示されているグラフや図及びデーターから読み取ったことから、理論や法則性を導き出し、導出過程を数式等を使い思考過程を他者に理解できるよう発表できるか（発表者以外は、レポートを発表に代える）。	天文・気象を含む地学現象の調べ学習に必要なものとして与えた資料を正確に解釈し課題に取り組むとともに、補強資料として、与えた資料以外の資料を「知識・技能・思考・判断で獲得した力」で有為なものか否か判断し集めることができているか。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	固体地球とその活動・活動する地球	1. 地球の概観 2. 地球の内部構造 3. プレートテクトニクスと地球の活動 4. 地震 5. 火山活動と火成岩の形成	a：学習内容に関して定期考査で知識･技能として出題した用語や基本概念の出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100%で A 40～ 69%で B 0 ～ 39%で C と評価 b:学習内容に関して定期考査で思考･判断として出題したグラフや図版やデータの読み取りの出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100%で A 40～ 69%で B 0 ～ 39%で C と評価 c:学習内容に示した項目に関する演習課題(ビーライン地学基礎･セミナー地学基礎で指定した問題と探求ノート実習課題-2 年次で既に取り組み済みの課題については，理科年表等のデータで再度取り組ませる-)の取り組みで評価。 (提出物) 全ての演習課題に取り組んでいた場合を取り組みの状況で 60～40 点で採点、一部の取り組みがなされていない場合，取り組めていない割合で 39～20 点で採点､未提出者は，0 点として採点。 (グループワーク) 探求ノート・教科書の発展を元に課した課題についてのグループ(5～6 人) ワークで司会･意見集約･記録・発表の役割を果たしていれば，40～20 点・以外を 19～10 点で採点。グループワークに参加する姿勢が見られない場合は 0 点と採点。 (評価) 提出物とグループワークの点数の合計点で評価。 合計点： 70～100 点で A 40～ 69 点で B 0 ～ 39 点で C と評価	定期考査及び小テストの得点で正答率を算出 正答率は、口頭試問に対する回答及びワーク(演習)を加味する。	定期考査及び小テストの得点で正答率を算出 正答率は、口頭試問に対する回答及びワーク(演習)を加味する。	ビーライン地学基礎･セミナー地学基礎用の演習ノートと探求ノートの実習課題(理科年表等からデーターを付加したもの)の取り組み状況(提出物とグループワーク)で算出

	移り変わる地球　大気と海洋	1. 地球と生命の進化 2. 地球史の読み方 3. 地球の誕生 4. 大気の構造 5. 太陽放射と大気･海水の運動 6. 日本の天気	a ：学習内容に関して定期考査で知識･技能として出題した用語や基本概念の出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100％で A 40～ 69％で B 0 ～ 39％で C と評価 b :学習内容に関して定期考査で思考･判断として出題したグラフや図版やデータの読み取りの出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100％で A 40～ 69％で B 0 ～ 39％で C と評価 c :学習内容に示した項目に関する演習課題(ビーライン地学基礎･セミナー地学基礎で指定した問題と探求ノート実習課題-2 年次で既に取り組み済みの課題については，理科年表等のデータで再度取り組ませる-)の取り組みで評価。 (提出物) 全ての演習課題に取り組んでいた場合を取り組みの状況で 60～40 点で採点，一部の取り組みがなされていない場合，取り組めていない割合で 39～20 点で採点､未提出者は，0 点として採点。 (グループワーク) 探求ノート・教科書の発展を元に課した課題についてのグループ(5～6 人）ワークで司会･意見集約･記録・発表の役割を果たしていれば，40～20 点・以外を 19～10 点で採点。グループワークに参加する姿勢が見られない場合は 0 点と採点。 (評価) 提出物とグループワークの点数の合計点で評価。 合計点： 70～100 点で A 40～ 69 点で B 0 ～ 39 点で C と評価	定期考査及び小テストの得で正答率を算出 正答率は、口頭試問に対する回答及びワーク(演習)を加味する。	定期考査及び小テストの得点で正答率を算出 正答率は、口頭試問に対する回答及びワーク(演習)を加味する。	ビーライン地学基礎･セミナー地学基礎用の演習ノートと探求ノートの実習課題（理科年表等からデーターを付加したもの)の取り組み状況（提出物とグループワーク）で算出

二学期	自然との共生	1. 地球環境と人類 2. 地震災害･火山災害 3. 気象災害と社会 4. 人間社会と地球環境の変化	a ：学習内容に関して定期考査で知識･技能として出題した用語や基本概念の出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100％で A 40～ 69％で B 0 ～ 39％で C と評価 b :学習内容に関して定期考査で思考･判断として出題したグラフや図版やデータの読み取りの出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100％で A 40～ 69％で B 0 ～ 39％で C と評価 c :学習内容に示した項目に関する演習課題(ビーライン地学基礎･セミナー地学基礎で指定した問題と探求ノート実習課題-2 年次で既に取り組み済みの課題については，理科年表等のデータで再度取り組ませる-)の取り組みで評価。 (提出物) 全ての演習課題に取り組んでいた場合を取り組みの状況で 60～40 点で採点，一部の取り組みがなされていない場合，取り組めていない割合で 40～20 点で採点､未提出者は，0 点として採点。 (グループワーク) 探求ノート・教科書の発展を元に課した課題についてのグループ(5～6 人）ワークで司会・意見集約・記録・発表の役割を果たしていれば，40～20 点・以外を 19～10 点で採点。グループワークに参加する姿勢が見られない場合は 0 点と採点。 (評価) 提出物とグループワークの点数の合計点で評価。 合計点： 70～100 点で A 40～ 69 点で B 0 ～ 39 点で C と評価	定期考査及び小テストの得点で正答率を算出 正答率は、口頭試問に対する回答及びワーク(演習)を加味する。	定期考査及び小テストの得点で正答率を算出 正答率は、口頭試問に対する回答及びワーク(演習)を加味する。	ビーライン地学基礎･セミナー地学基礎用の演習ノートと探求ノートの実習課題（理科年表等からデーターを付加したもの）の取り組み状況（提出物とグループワーク）で算出

	総合問題演習	「複数の単元に関わる知識及び技能」及び「高校生として求められる物理・化学・生物・環境科学・数学の基礎的な知見」を用いて解法することが求められる演習課題	a：学習内容に関して定期考査で知識・技能として出題した用語や基本概念の出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100％で A 40～ 69％で B 0 ～ 39％で C と評価 b：学習内容に関して定期考査で思考・判断として出題したグラフや図版やデータの読み取りの出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100％で A 40～ 69％で B 0 ～ 39％で C と評価 c：学習内容に示した項目に関する演習課題（ビーライン地学基礎・セミナー地学基礎で指定した問題と探求ノート実習課題-2 年次で既に取り組み済みの課題については，理科年表等のデータで再度取り組ませる-）の取り組みで評価。 （提出物） 全ての演習課題に取り組んでいた場合を取り組みの状況で 60～40 点で採点、一部の取り組みがなされていない場合，取り組めていない割合で 40～20 点で採点，未提出者は，0 点として採点。 （グループワーク） 探求ノート・教科書の発展を元に課した課題についてのグループ（5～6 人）ワークで司会・意見集約・記録・発表の役割を果たしていれば，40～20 点・以外を 19～10 点で採点。グループワークに参加する姿勢が見られない場合は 0 点と採点。 （評価） 提出物とグループワークの点数の合計点で評価。 合計点： 70～100 点で A 40～ 69 点で B 0 ～ 39 点で C と評価	定期考査及び小テストの得点で正答率を算出 正答率は、口頭試問に対する回答及びワーク（演習）を加味する。	定期考査及び小テストの得点で正答率を算出 正答率は、口頭試問に対する回答及びワーク（演習）を加味する。	ビーライン地学基礎・セミナー地学基礎用の演習ノートと探求ノートの実習課題（理科年表等からデーターを付加したもの）の取り組み状況（提出物とグループワーク）で算出

三学期	総合問題演習	「複数の単元に関わる知識及び技能」及び「高校生として求められる物理･化学･生物･環境科学･数学の基礎的な知見」を用いて解法することが求められる演習課題	a：学習内容に関して定期考査で知識･技能として出題した用語や基本概念の出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100％で A 40～ 69％で B 0 ～ 39％で C と評価 b：学習内容に関して定期考査で思考･判断として出題したグラフや図版やデータの読み取りの出題の正答率で評価 （小テストで正答率は補正） 正答率： 70～100％で A 40～ 69％で B 0 ～ 39％で C と評価 c：学習内容に示した項目に関する演習課題(ビーライン地学基礎･セミナー地学基礎で指定した問題と探求ノート実習課題-2 年次で既に取り組み済みの課題については，理科年表等のデータで再度取り組ませる-)の取り組みで評価。 (提出物) 全ての演習課題に取り組んでいた場合を取り組みの状況で 60～40 点で採点、一部の取り組みがなされていない場合，取り組めていない割合で 40～20 点で採点,未提出者は，0 点として採点。 (グループワーク) 探求ノート・教科書の発展を元に課した課題についてのグループ(5～6 人）ワークで司会・意見集約・記録・発表の役割を果たしていれば，40～20 点・以外を 19～10 点で採点。グループワークに参加する姿勢が見られない場合は 0 点と採点。 (評価) 提出物とグループワークの点数の合計点で評価。 合計点： 70～100 点で A 40～ 69 点で B 0 ～ 39 点で C と評価	小テストで正答率を算出	小テストで正答率を算出	ビーライン地学基礎･セミナー地学基礎用の演習ノートと探求ノートの実習課題（理科年表等からデーターを付加したもの）の取り組み状況（提出物とグループワーク）で算出

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度